



モユク・カムイ 91

NO.

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。©October 2016

ASAHIYAMA ZOO NEWS あさひやまどうぶつえんニュース

もくじ

ぼくは動物大使 その52 北海道の生態系を支える シロザケ.....	1.2
特集 旭山の高齢動物たち.....	3.4
飼育研究レポート アムールトラ繁殖の取り組み①～2015年編～.....	5
動物園裏側紹介 夏休みだよ!!サマースクール編.....	6
主なできごと 編集後記・飼育動物数.....	7



シロザケ

Oncorhynchus keta

特集 旭山の高齢動物たち

アムールトラにはじまり、ユキヒョウ、レッサーパンダ、テナガザル、トナカイと出産ラッシュの2016年の旭山動物園。しかし、旭山は赤ちゃん動物だけではありません、長生きな動物たちも忘れてはいけません。今回の特集では旭山に暮らす高齢動物たちを紹介します。

チンパンジー(オス)・キーボ

寿命: およそ40~50年(飼育下)



1968年8月30日 多摩動物公園生まれ
1975年2月10日 おびひろ動物園より来園

前からいたメスのゴクウのペア相手として来園したキーボ。その後、複数のメスを迎え、多くの子供が産まれました。2006年に息子のシンバに α (第1位)オスの座を奪われて、2群れに分かれましたが、現在でも片方の群れの α オスとして健在です。昔に比べると白い毛も増えましたが、まだまだ大きな音を出すディスプレイ行動は迫力満点です。群れで生活する動物では高齢になり力関係が崩れてしまうことが心配ですが、上手く関係を保ちながら暮らして欲しいです。



アムールトラ(メス)・のん

寿命: およそ15~20年(飼育下)



1996年4月1日 天王寺動物園生まれ
1996年6月28日 天王寺動物園より来園

先代のハチ・ノウヒメの後を継いで、もうじゅう館完成に合わせて来園したのん。ペア相手のいっちゃんとは人工授精のチャレンジなども行いましたが、残念ながら子供はできませんでした。2009年にいっちゃんが死んでからはのんびり1頭での生活でしたが、2014年に新ペアが来園してからはお隣が一気ににぎやかになりました。2016年の出産ラッシュで何かと騒がしいもうじゅう館ですが、のんは変わらずマイペースです。



ライオン(オス)・ライラ

寿命: およそ15~20年(飼育下)



1996年4月14日 徳山動物園生まれ
1997年4月24日 徳山動物園より来園

先代のベル・ララの後を継いで、ライラとレイラのペアはもうじゅう館完成に合わせて来園しました。その後、9頭の子供が成育し、他の動物園へと旅立っています。最後の子(アキラ・釧路市動物園)がいなくなっからは、のんびり2頭での生活となっています。数年前にライラが毛玉がお腹の中で詰まる毛球症を患いましたが、現在は再発に注意しながら飼育しています。寒い冬は外に出ることをいやがるようになり、展示できない日もありますが、これからも彼らのペースに合わせての飼育になります。

ライオン(メス)・レイラ



1995年6月5日 アドベンチャーワールド生まれ
1997年4月24日 アドベンチャーワールドより来園

ワピチ(メス)・さち

寿命: およそ15~20年(飼育下)



1985年 群馬サファリパーク生まれ
1987年12月29日 姫路セントラルパークより来園

トナカイ・ワピチ舎に暮らすワピチのさち。旭山では数多く出産し、7頭が生育しました。長らく1頭での暮らしでしたが、2015年にトナカイが新たにやってきてからは、同居となっています。最初は活発に動くトナカイとの距離感が心配でしたが、今ではお互い気にせず暮らしています。筋肉も衰え、床ずれなども出来てしまいましたが、できる限りのケアをしていきます。

まだまだいるよ、高齢動物



レッサーパンダ(オス)・ノノ 2002年7月15日生まれ
レッサーパンダ(メス)・栃 2001年7月24日生まれ
寿命: およそ15~18年(飼育下)



ポニー(オス)・ミクロ 1987年5月2日生まれ
寿命: およそ25~30年



ニホンザル(メス)・シロザル 1988年4月12日生まれ
寿命: およそ20~30年(飼育下)

「動物の年齢を人間に例えると何歳ですか?」とよく聞かれます。しかし、人間の寿命が国や地域によって違うことから、単純に比較できるものではありません。また、人と違い、小学校入学や就職・定年といった区切りがあるわけでもなく、動物たちは彼らなりのライフステージを歩んでいます。そんな中で、老いていく過程で変化する外見や行動を通して、彼らの生き方を感じてもらえるように、私たち飼育係は精一杯のケアをしながら、彼らを見つめていきたいと考えています。



飼育研究レポート



アムールトラ繁殖の取り組み①～2015年編～

2015年4月から、もうじゅう館担当になりました。その半年前、2014年9月にアムールトラのオス・キリルとメス・ザリアがアメリカから来園していました。

日本国内では新たな血統となるアムールトラのペア。旭山にとっても、トラの繁殖は初めての事となります。彼らを繁殖に導くことが、もうじゅう館担当としての大目標でした。しかしこの2頭、なかなか神経質な個体で、「朝、放飼場に出て、夕方、寝室に帰ってくる」という、飼育上最低限の動き、いわゆる「出入り」を覚えるまでに、数か月を要する個体でした。

キリルとザリアの同居も、繁殖のためというより「ザリアになんとか出入りを教えるために、先に出入りを覚えたキリルと同居させてみよう」という目的で始まったのです。そしてようやく2頭とも通常に展示できるようになった直後の2015年5月25日、なんと2頭は交尾してしまいました。繁殖目的で来園した2頭ですから、これは嬉しいことなのですが、まだ環境に慣れたばかりのザリアが妊娠してしまったことに不安もありました。

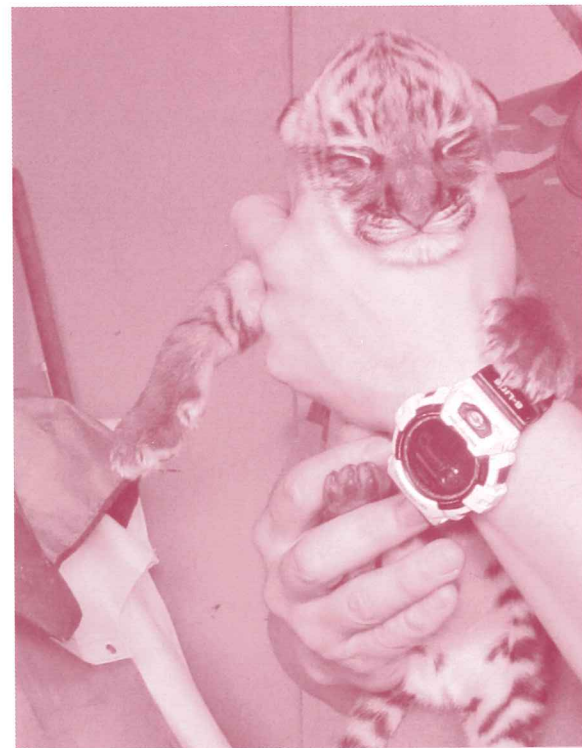
トラは出産しても、環境に慣れていないと育児放棄してしまったり、産んだ子を食べてしまうこともあるのです。トラの妊娠期間は90～110日。「それまでに産室を準備せねば！」担当者の僕にタイムリミットが与えられました。6月～7月は居残り作業で産室を作りました。しかしザリアにとっては、やっと慣れてきた環境がまた変わり、工具の作業音も気になる。せつかく覚えた寝室への出入りが、また不安定になりました。かと言って、産室を用意しないわけにもいかない。産室準備を強行するしかありませんでした。

7月末には産室が完成し、9月の出産予定日まで約一か月、産室に慣れさせる期間を取ることができました。あとは祈るのみ・・・！

そして迎えた9月9日。朝、もうじゅう館に入ると、トラの子の鳴き声が聞こえます。「生まれている！」でも、ザリアが子育てする動きは見られませ

んでした。獣医を呼び、ザリアを隣の部屋に移動させて産室を確認すると、4頭の子を発見しました。しかし1頭はすでに死亡、残る3頭は胎盤がついたままで、ザリアが全く育児をしていないことがわかりました。

「育児放棄」。最悪の予想が的中してしまいました。やはりザリアを環境に慣れさせる時間が足りなかったのです。すぐに人工哺育に切り替え、トラの子3頭の「育児生活」が始まりました。3時間おきに、猫用ミルクを哺乳瓶で与えます。早朝は獣医、深夜は担当者と交替でおこないました。しかし努力もむなしく、生後12日目までに、子は3頭とも死亡してしまいました。



残念ながら、子を生かすことはできませんでした…。

「もうじゅう館担当一年目でアムールトラ繁殖に成功！」という目標に向かって全力を尽くしましたが、その夢はもろくも崩れ去りました。

2015年のアムールトラ繁殖は、自然哺育(親が子育てする)にもできず、人工哺育も失敗、という惨めな結果に終わったのです。<②へつづく>

(もうじゅう館担当:大西 敏文)

動物園裏側紹介

夏休みだよ!!サマースクール編

今年で41回目を迎えた、夏の定番イベント「サマースクール」。小学5～6年生の参加者が3日間、飼育展示スタッフが普段行っている仕事を体験するイベントです。今回は、「サマースクール」を徹底紹介します!

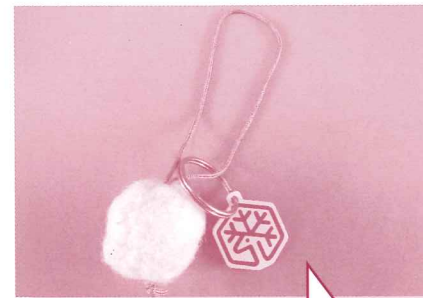
まずは開校式からスタート。みんなとても緊張した顔をしています。でも大丈夫。すぐに友達ができて、大騒ぎになります。



そして園内見学へ。普段は入ることのできない、動物たちの寝室にどきどき、わくわく。



サマースクールのしおり。中にある動物日誌に、飼育作業を行った動物たちの様子を書き込みます。



続いて飼育実習。動物たちの健康状態を観察したり、寝室の掃除、ご飯作りなどを行います。写真は、カピバラボールをごしごし掃除中。

今年の動物教室では、ヒツジの毛でストラップ作りを行いました。完成したストラップに、オリジナル動物園ロゴキーホルダーを付けて完成!

最後は看板作り。飼育作業を通じて発見した、動物たちのすごい能力などを看板に書きます。もちろん旭山動物園らしく手書きです。



サマースクール担当 佐賀 真一さんよりメッセージ

旭川市内はもちろんのこと、旭川市外、北海道外のたくさんの子どもたちに参加してもらい本当にありがたく思います。飼育展示スタッフ総動員で、子どもたちに様々な角度から動物のことを伝えました。その中で子どもたちが感じたこと、すごいと思ったことが看板になります。今年も子どもたちの渾身の看板ができあがりました。園内各所に掲示してありますので、ぜひご覧ください。

第41回サマースクール
41th Summer School
2016.8.1-3

アムールトラの
ごっこ

ヒツジの
ごっこ

班	学校名	学年	名前

主なできごと

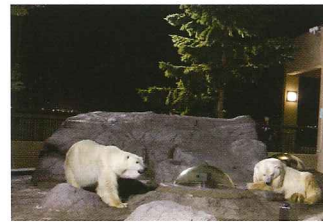
- 6月1日 トナカイ(メス)「和香」が1頭出産、旭山動物園では12年ぶりの繁殖
- 10日 エゾシカ「ペロ」が出産
- 12日 クマタカ ふ化(7月13日死亡)
エゾシカ「ペペ子」が出産
- 13日 旭山動物園が、第1回日本サービス大賞で「地方創生大臣賞」受賞
- 19日 旭山動物園くらぶ主催「あったかとーく」
- 20日 恩返しプロジェクトが行われている現地ボルネオ島(マレーシア)にて、寄贈された軽トラック3台の引き渡しと贈呈式
- 23日 ブラッサグェノンのメス「もも」、いしかわ動物園より来園
- 24日 飼育勉強会
- 25日 カピバラのメス「ゴンベ」10才、死亡
キングペンギンふ化(6月27日死亡)
障がい者夜間特別開園
- 28日 レッサーパンダの滄滄(ユーユー)が、2頭出産
- 7月1日 第49回 開園記念日
動物慰霊祭
- 3日 自然観察会「よくばり自然体験」
- 7日 コープさっぽろ様より、『ホッキョクグマ応援プロジェクト』協賛金贈呈式
- 9日 夕暮れの撮影教室



- 7月11日 シロテテナガザル、「モンロー」出産



- 16日 チゴハヤブサふ化(7月18日死亡)
- 20日 コノハズク ふ化
- 21日 発泡スチロール協会様より、ホッキョクグマにお魚のプレゼント
- 27日 キングペンギン1羽、死亡
- 28日 飼育勉強会
- 31日 国昭建設様より、氷のプレゼント
- 8月1日 第41回サマースクール(3日まで)
- 7日 自然観察会「虫と友だちになろう」
- 8日 教員のための博物館の日
- 9日 夜の動物園(15日まで)



- 10日 キョクイチロジ様より、氷のプレゼント
- 15日 アムールトラ・ユキヒョウの命名式



編集後記

今年の夏は、暑さあり、滅多に旭川に来ない台風が上陸といろいろと大変でした。動物園に台風の被害はありませんでしたが、周辺の川の堤防が決壊するなど、改めて自然の猛威を実感させられました。

旭山動物園は7月1日に開園49周年を迎えました。来年は50周年という節目の年となります。動物園もモユクカムイも更なる進化を遂げられるよう、スタッフ一同頑張りたいと思います。

モユク・カムイ No.91 平成28年10月31日

- 発行所/旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行/坂東 元 ●表紙絵/中田 真一
- 編集/丸 一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平・佐賀 真一
- 印刷/株須田製版
〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2016年8月末現在

- 哺乳類 46種・270点
- 鳥類 57種・326点
- は虫類 5種・17点
- 合計 108種・613点